



FORUM 6

15:20～15:40

国際救助隊と、福島の子供たちの未来

N.Rescue and the future of children in Fukushima

小林 信一 生物資源科学部・教授

昨年8月9日～12日の3泊4日の日程で、静岡県富士宮市にある日大富士自然教育センターで、4回目となる福島こどもキャンプを実施しました。第4回目も学部や学部校友会、農業団体などの協賛をいただき実施しましたが、今回は国際救助隊の支援を受け、トレーラーをステージに、太鼓の演奏会をふもとつばらキャンプ場で開催することもできました。

福島こども自然体験キャンプは、2011年3月11日の東日本大震災による東京電力福島第一原発事故のために避難生活を余儀なくされている福島県川俣町山木屋と飯舘村の子どもたちを対象に、毎年8月に開催しています。これは河野学部長の英断によって、学部と校友会(第一回は日大校友会、第二回以降は学部校友会)の主催によって実現したものです。このきっかけは、筆者の担当した川俣町の場合は、牧場実習でお世話になった菅野浪男氏に「何か我々ができることはないだろうか」と問い合わせたところ、「私のことよりも、子どもたちが外で遊べなくなっている。だから、夏休みの数日でも、青空の下、精一杯、外で遊ばせてやりたい。」との要望があったことです。それに答える形で実施に動いたところ、たまたま飯舘村に20年以上係っていた生物資源環境工学科の糸長教授も同じ思いであることが分かり、一緒にやりましょうということになりました。

菅野氏は小生の40年来の友人ですが、この牧場は福島県川俣町山木屋という原発事故で計画的避難区域に指定され、2011年5月から避難を余儀なくされている地域にあります。動物資源科学科の学外実習で、これまで25年間に20人以上の学生がこの牧場など山木屋地区の牧場での実習でお世話になっています。氏はこの地に新規就農し、40年かけて見事な草地を作り上げ、酪農コンクールで全国優勝もするようなすばらしい放牧酪農経営を展開されてきました。しかし、今回の原発事故によって、彼が半生をささげて作った牧場は、すべて水泡に帰してしまいました。

子どもたちは、今でも家族とも、友達ともバラバラになって生活せざるを得ない状況に置かれており、また健康など将来への不安を抱えながら、生活しています。すでに震災から3年以上が経過しましたが、依然として福島の12万人の方が避難生活を余儀なくされています。それも、家族がばらばらな状況で。前述の川俣町山木屋の世帯数は約300だったそうですが、

今は 500 世帯に膨れ上がっています。それは、仮設住宅など避難先の住宅が手狭なため、以前のように 3 世代や 4 世代が一緒に住むことができず、若い人とお年寄りがバラバラに離れて暮らさざるを得ないため、世帯数が膨れ上がっているということです。小さい子どもを持つ若い世代の中には、子どものために遠方に疎開している方もいます。仮設住宅では六畳と四畳半に 5 人が住んでいるような状況で、これが 3 年以上続いているため、もちろんストレスもかかると思います。また、老人は子や孫たちと離ればなれに暮らさざるを得ないための寂しさや、あるいは、多くが兼業を含めた農家であったため、お年寄りにも様々な仕事があったのが、今は何もすることがなくなってしまったため、生きる張り合いがないというお年寄りも多くおられるとのこと。知り合いの方からも、お年寄りがぼけてしまい、亡くなってしまったという話も伺いました。「原発で直接亡くなった人はいない」という電力会社の社員の発言があったが、こういった形で亡くなったり、自殺したりという方も多いことも、しっかり知ってほしいと涙ながらに話されました。

政府は除染をして帰郷を保障すると言っていますが、川俣町山木屋や飯舘村などの住民の中には、除染も住宅周辺だけでは元の暮らしには戻れず、また除染自体があまり信用できないため、戻るに戻れない状況が続くと見ている方も多いようです。賠償金の支払いもなかなか進まない中で、将来の見通しが見えない、そうした状況が、3 年経った福島の現状だということを、まず我々は踏まえておく必要があります。

そうした中で、我々として、大学として何ができるのかを考えてきました。このキャンプは、厳しい生活を強いられている子供たちにとっては、ほんのささやかなプレゼントにすぎませんが、夢中になって駆け回っている子供たちの笑顔は何物にも代えがたいものです。

第 4 回目は川俣町の実施となりましたが、川俣町山木屋小中学校生 27 人を始めとする保護者や学生など 51 名が参加して、カヌーや鹿皮細工、宝探しなどのプログラムを楽しみました。お昼はボランティアの方による地元富士宮焼きそばや、OG のお蕎麦屋さんによる手打ちそばを堪能しました。

今回は日大国際救助隊の支援を受け、富士宮市の太鼓グループとともに太鼓演奏会を開催することができましたが、子供たちの中には地元の山木屋太鼓の練習をしている子供もおり、初心者や学生スタッフともども練習を積んで、本番に備えました。当日は 100 名以上の観客の前で、子供たち、学生、地元太鼓グループが一緒になって太鼓を敲き、大いに盛り上がりました。

富士宮市での子どもキャンプは昨年で一応幕を閉じる予定ですが、今後も福島の子供たちへの支援を何らかの形で続けていくつもりです。例えば、国際救助隊による福島への出前授業や演奏会などを実現できたらと考えております。このキャンプの実施には多くの方のご協力があって初めて可能となりました。記して深甚の感謝の意を表します。



太鼓演奏会



太鼓練習



富士山